

## 令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年(2020年)3月24日  
札幌市立あいの里東中学校  
校長 佐田 利典

## 1 本年度の重点目標

- (1)「学ぶ力」を培う (4)「信頼される学校」の創造  
(2)「豊かな心」「健全な人間関係」を培う (5)あいの里東中らしい教育活動の推進と開発  
(3)「健やかな体」を培う

## 2 本年度の運営方針

- (1)教職員相互の協力体制を基盤とする学校運営(チームあい中)  
(2)一人一人の生徒を大切にしたい教育活動の推進  
(3)保護者・地域・関係機関との連携による学校教育の充実  
(4)本校学校文化を継承するとともに、新たな学校づくりへの意欲的な研究開発

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A十分達成できた、Bおおむね達成できた、C少し不十分だった、D不十分だった)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	1 重点目標の内容は学校や生徒の実態から見て適切である。	A	学年会・校務部会、特別委員会や教育課程検討委員会を中心に、今後も現状の教育課程の見直しを常に行い、適切な編成と実施に努める。	A	A
	2 調和のとれた教育課程を編成している。	A	教科の標準授業時間の確保をしながら、行事等に必要な活動時間の確保に努める。また、2年生で実施した職場体験を顧みて、学ぶ力、豊かな心、健やかな体の育成に努める。	A	A
	3 自己存在感や社会性を育んでいる。	A	生徒と教師・生徒同士・教師と保護者の信頼関係をより一層築いていく。授業だけではなく、様々な活動等の場面で、生徒のよさや可能性を伸ばす指導に重点をおく。	A	A
	4 重点目標への教職員の共通理解や機能化が図られ、協働して活動している。	A	学年会や校務部会、さらに職員会議、何より日常的に、全教職員でどのように生徒を育てていくかの共通理解を深め、共通認識のもと、指導にあたる。	A	A
学校関係者評価委員によるご意見		一人一人の生徒を大切にしたい教育活動は難しいとは思いますが継続して欲しい。			
学習指導	5 基礎・基本の定着と活用を図る指導に努めている。	B	基礎・基本の定着のために、日々の授業を充実させる。今まで以上にきめ細やかな、個に応じた指導を行う。	A	A
	6 一人ひとりの意欲につながる適切な評価に努めている。	B	個々の生徒へのはたらきかけや助言の機会を増やし、適切な励ましを継続していく。成長の過程、目標の達成状況の見取りに重点をおく。	A	A
	7 各教科において、ICTの活用と言語活動を高める工夫に取り組んでいる。	A	各教科や学活・総合など多くの場面で、ICTを有効に使うことで理解を深めるとともに、グループ交流や発表の場面を設け、より深い理解へと導く。	A	A

	8	命の尊さや思いやりなど豊かな心を育む教育活動を行っている。	A	道徳教育の充実に併せて、外部講師の活用（保健講話・情報モラルの授業等）や体験活動の充実に目指してきた。今後も教育活動の全体を通して命の尊厳・思いやりの心など豊かな心の育成に引き続き努める。	A	A
--	---	-------------------------------	---	--	---	---

学校関係者評価委員  
によるご意見

結果だけではなく過程を大切にしたい教育をしていただきたい。

分野	評価項目		自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生活指導	9	生徒指導において情報交換が行われ、一致した指導体制で臨んでいる。	A	生徒指導部が中心となり、当該学年だけでなく職員全体で情報を共有し、教職員が一体となって生徒指導に努めてきた。次年度も、悩みを抱える生徒をよりサポートするために、研修会などの充実を進めていく。	A	A
	10	いじめや不登校、不適応生徒に対して組織的に適切な対応をしている。	B	担任だけでなく、学年体制で指導や支援に関わることで、成果や改善が見られた。次年度も、教育相談やいじめアンケートの実施と活用をすすめ、学びの支援委員会を中心に、教育相談活動の充実やスクールカウンセラー、関係機関との連携強化、全職員で協力して指導に当たる体制づくりに努め、不登校支援に取り組む。	A	A
	11	基本的な生活習慣や態度の育成に努めている。	A	生徒たちが、「心をかたち」のテーマのもと、自ら「より良い学校」を作っていくという意識をもち、行動できるように、重点を明確にし、目標を持たせられるように指導にあたっていく。	A	A
	12	ふれあいを大切にし、一人一人への生徒理解に努めている。	A	常に生徒に寄り添いつつ、対話を大切にして、相互の信頼関係を深めていく。職員間の情報の共有化に努めていく。	A	A

学校関係者評価委員  
によるご意見

協力できることはあるので、何かあったら連絡を欲しい。不登校は本校だけの課題ではないが、一人一人に寄り添うことが大切である。

教育環境	13	P T A 活動の充実や地域・近隣学校との連携を図り、本校の教育活動への理解と協力を得られるよう努めている。	A	校内のP T A活動や、地域の活動に多くの教職員が関わっていくことで、交流を深めていく。また、小中連携をさらに充実させ、小中の連続性、一貫性のある教育を目指していく。	A	A
	14	安全・安心な環境づくりと指導に努めている。	A	清掃活動の充実や学習環境の整備をさらに進めていく。不審者情報等については、学級指導やホームページと併せて、P T Aメールも用いて、家庭や地域との連携を図りつつ、登下校指導を適時行いながら、生徒の安全確保に努めていく。	A	A
	15	朝の読書などを通して、読書活動の推進を図っている。	B	朝読書の取り組みにより、落ち着いた雰囲気でも多くの生徒が利用しているが、さらに読書活動の充実を進めていく。	A	A

学校関係者評価委員  
によるご意見

I C Tの活用だけに偏らず、文章を読むことや書くことの重要性を説いたりしなければならない。バランスよく有効活用することが大切である。

